

智頭町第7次総合計画進行管理結果

令和3(2021)年度事業

令和4(2022)年9月

企画課

## I 森の恵みを活かしたまちづくり

全体的な評価としては、令和2年度と比較して達成度に大きな変更は見られず、昨年度の同様の事業の進捗であったことが伺える。

令和元年度から令和2年度にかけて多くの事業評価がCからBへステップアップし、その状態を維持している傾向がある。

森のようちえんについては、ほぼ例年どおり入園者を受け入れており(R2年度28人、R3年度26人)、町外への影響力も高く、本町への移住者増へ貢献している(No.1)。

「仕事」を視点とする事業の多くが農林業に関わる事業となっており、林業及び農業、獣害対策事業の従事者、後継者を支援、育成する取組となっている。

中でも自伐型林業推進のための研修会参加者数は非常に伸びており、智頭の山人塾参加者数も高い実績を維持している(No.6、No.11)。また、間伐促進のための出荷材支援についても、本町の基幹産業を支える林業事業体の需要の高さが見られる(No.7)。一方で、山林バンク登録数が伸び悩んでおり、森林管理者制度事業と合わせた山の持ち主と施業者とを具体的に繋ぐ取組の推進が待たれる(No.10、No. I-2)。

農業関係事業としては、自然栽培農法を推進するNPO組織が立ち上がり、普及促進や新規ブランドの開発を進めている(No.16)。また、獣害対策としての進入防止柵設置の需要は高く、捕獲頭数もほぼ例年どおりである。ジビエの普及啓発のための研修や中学生への鹿肉試食会などを展開している(No.20)。

商店街活性化については、コロナ禍においてイベント等の中止が相次ぎ、十分な成果が出ているとは言い難く(No.4)、主体的な活動を促す仕掛け作りが必要。

環境整備の視点においては、計画的な地籍調査事業を進めている(No.30)。しかしながら、景観に関する事業が進んでおらず、文化的景観や景観計画の周知、具体的なアクションが求められている。

I 森の恵みを活かしたまちづくり		目標への達成度(下段:令和2年度数値)				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿なくらし	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	2 (2)	17 (18)	3 (4)	0 (0)	0 (0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	3 (3)	3 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (0)

## II 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

全体的な評価としては、令和2年度の評価状況をほぼ維持しつつ、給食費無償化、コンビニ納付・交付のスタート、道路等インフラ整備による住民の負担軽減、利便性や安全性向上などが充実している。

また、IP 告知端末の更新(No.53)、東部広域行政管理組合の焼却場完成(No.64)など、住民の生活に大きく関わる事業が完了。特に IP 告知端末は今後の智頭町のDXを進める上で重要な基盤となるよう想定している。

コロナ禍であっても、乳幼児関連事業(No.35,36)や介護予防事業(No.43)は実施できており、住民の健康維持、向上への成果が期待できる。感染症の長期化が懸念され、町内での感染も発生している中ではあるが、住民組織と民間、行政が一体となって乗り越えて行きたい。

住民の生活インフラとして極めて重要なものの一つ「公共交通」事業は(No. II-7)、令和3年度、令和4年度と実証実験を行い、令和5年度本格運用を目指す。利用者と住民ドライバーを結ぶシステム構築はもとより、利用料金設定と決済方法、ドライバー報酬と日常運行管理の方法など速やかな方針決定ときめ細かな住民周知が求められる。併せて従来稼働していた町民バス「すぎっ子バス」は令和5年度からスクールバスとして生まれ変わる予定である(No.61)。

道路インフラ事業については、国土強靱化の観点から国県補助金が重点的に配分され、点検及び修繕、改良が充実した(No.55)。

健康長寿のまちづくりを推進するため、高齢者の生きがいと健康づくり事業(No. II-13)を実施計画に追加し、事業の進捗や評価の見える化を図るとともに、森のミニデイ(No.43)や暮らしを考える会などの機会を利用しながら、取り組みの成果や現状を住民へ伝えることも重要である。

II 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり		目標への達成度(下段:令和2年度数値)				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし	4 (2)	14 (15)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	9 (9)	10 (7)	0 (2)	0 (0)	1 (0)

### Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

全体的な評価としては、令和2年度の実績と同等程度の達成状況である。コロナ禍において教育活動や文化活動等が制限されながらも、一定の対策を取りつつ事業を遂行することができたと言える。

特に、教育についてはデジタル化や、コミュニティスクール導入に伴う地域との連携による現場環境の変化が想定され、より一層児童生徒に寄り添った事業の展開が必要とされる。

そのような中で、ちえの森ちづ図書館は開館以来7万人を超える集客を誇り、図書館を中心にした賑わいの創出(No.82)事業においては地域と連携した取組を積極的に行っている。利用者、貸出冊数も伸びており(No.88)、「子どもから大人まで学びと成長のまちづくり」の象徴的な公共施設としての存在感が増している。

中学生を対象とした智頭NEXT(No.80)では、ジビエ試食や起業者特別講演、大学生を交えたワークショップを実施し、百人委員会への提案事業を繋げることができた。

智頭農林高校との連携(No.89)では、県教育委員会や地域住民との協働により魅力アッププロジェクトが立ち上がり、現在町内学習塾をフィールドとした高校生達のたまり場が開設されている。

地域コミュニティを推進する事業としては、地域の拠点となる空き校舎等利活用推進事業(No.95)があり、令和3年度から令和4年度にかけて旧那岐小学校の改修事業を進めている。地域住民の思いがこもった設計となっており、地域経営、住民自治の核として期待される。小学校統廃合から10年が経過し、各地区それぞれ特色ある取り組みを行っているが、将来的に持続可能な地域となるべく、官民の連携が必要とされる。

文化財保護の事業については、石谷家住宅(No.84)の大屋根改修が控えており、板井原の保存活用、智頭の林業景観などと一体的に魅力発信やプロモーションを行うことで、住民への周知や、外部への観光集客を進めて行きたい。

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり		目標への達成度(下段:令和2年度数値)				
		A	B	C	D	E
		十分に達成	かなり達成	達成しつつある	あまり達成していない	達成していない
学び	生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす	0 (1)	23 (22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ	1 (2)	4 (4)	3 (4)	0 (0)	0 (0)

#### IV 地域や家族のつながりをつくるまちづくり

全体的な評価としては、令和2年度 A へステップアップした事業が B 評価へ移行しており、やや推進状況の停滞、減衰が見られる。

中でも子育て支援事業(No.111)における個別ケース増と、ファミリーサポート事業(No.110)や子育て支援センター(No.113)の利用者数減が対照的であり、子育てに関して相談することが難しい、頼りになる人が少ないなど、子育ての孤立が発生していないか、懸念される。共働き世帯の増加からか保育ニーズは高く(No.112)、産前産後ケア(No.103)事業や子どもの貧困対策(No.IV-5)事業と併せたきめ細かく切れ目のない寄り添い方が重要となる。

高齢者支援事業としてタクシー助成事業(No.114)は人気が高く、利用者は増加傾向にあるが、共助交通の仕組みが実現した後に、住民満足度の高い交通施策を継続する必要がある。

介護相談や認知症地域支援事業(No.116)においては、超高齢化社会を間近に控え、地域や家族のつながりを強化する取り組みの重要性を示している。

令和2年度から始まった「おせっかい奨学パッケージ」事業(No.133)は、企業版ふるさと納税額が3社1,580,000円と大きく増加し、登録小学生数も40超、うち1名Uターンの実績を生み出している。子どもたちへの支援と地域への愛着を醸成するために非常に効果的な事業であり、今後町内外企業への協賛やインターン受入を募るなどさらなる工夫が期待される。

地方創生推進交付金事業としてちづみちエリアリノベーション事業(No.IV-3)、まちのコイン事業(IV-4)があるが、ちづみちエリアにおけるイベント実施とまちのコインスポット設置を併用し、コロナ禍において約500人の参加者があった。まちのコインについては、ユーザー数がある程度増えているものの、コインを使うことができるスポット数が未だ少なく、増加に向けた取り組みを必要とする。

IV 地域や家族のつながりをつくるまちづくり		目標への達成度(下段:令和2年度数値)				
		A	B	C	D	E
		十分に達成	かなり達成	達成しつつある	あまり達成していない	達成していない
家族	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族	1 (8)	18 (12)	3 (1)	0 (0)	0 (0)
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ	3 (4)	6 (5)	1 (3)	0 (0)	0 (0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	0 (2)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)